児童・生徒の現状・課題

①自己の課題が分かり、方法を選択しながら学べるようになること。
②他者の意見や多様な個性を受け入れて、学びを得ること。

学び続ける力を育むための重点目標

〇自己理解を深め、関わり合いの中で他者を受け入れ、よりよい関係性を築くことができるようにする。
〇自己の課題が分かり、課題解決のために個人や友達と学習を進めることができるようにする。

※肯定的回答の割合(%)

児童生徒調査	目標値(8月)	結果(1月)
①他の人と考えを交流したり、協力して活動に取り組んだりすることは、自分の力をのばす役に立っている。	80.0	
②取り組む課題や調べ方、話し合う相手や発表方法など、学び方を自分で選び、学習をすすめることができる。	80.0	

教員調査	目標値(8月)	結果(1月)
①授業では、他の人と考えを交流したり、協力して活動に取り組んだりする場面を設定し、児童の思考を深めたり、広げたりできるようにしている。	80.0	
②授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	80.0	

具体的な手だて①

〇誰もが安心してすごせる環境づくりをする。
・子どもたちが安心して学習するための授業規律をつくる。
・町田市特別支援教育ハンドブックの UD 授業振り返りシートを活用し、学習環境・生活環境を整える。

具体的な手だて②

〇個の特性やよさを生かせる場面を設定する。
・課題を設定する場面をつくる。

具体的な手だて③

〇児童が個人の課題をつかめるように導入の工夫を図る。

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

〇通常の授業を参観し、感想を共有する。
・参観後は授業者にフィードバックする。スプレッドシートを活用し、よかった点を職員間で共有する。
〇毎週水曜を OJT タイムとして、安心できる学習環境、個の力を生かすことに関して、一人一回実践報告をする。

総括(7月)

児童の実態における本校課題は、①誰もが安心して過ごせる環境づくりを行うこと、②個を集団の中で生かしながら、個々の児童の力を最大限に引き出すことの2点である。

この2つの課題を解決するために、他の人と考えを交流したり、協力して活動に取り組んだりする場面を設定し、児童の思考を深めたり、広げたりできるようにするとともに自分の考えを受け入れられる経験を通して教室における安心感を醸成する。また、日常の授業において児童に選択させる場面を設定すること、そのために必要な手だてを教員がしっかり準備することで児童が自己理解を深めながら課題を解決できるようにすることが、授業改革の芯であると考えた。

総括(1月)